平成１５年６月７日

№４０

区画整理だより

発　行　橋本市 市街地開発事務所
（34）１２３５

今回は、市街地開発事務所長が、『区画整理』という専門誌の中の、【ひろば】というコーナー（まちづくりを話題としたエッセイ）に投稿したものを紹介します。

―ひろば―　「すうちゃん」と中心市街地の出逢いは公団の研修会

和歌山県　橋本市役所　建設部　市街地開発事務所長
鈴江　利夫

サブタイトル
【フレキシブルな路「人を集め、回遊、滞留させる広場イメージ」を創出させることで街を再生】
このエッセーを綴る。

１ 何故、出逢えたのか

それは、４年前の平成１１年２月９日、私（すうちゃん）が都市計画課長時代、住宅都市整備公団（現在：都市基盤整備公団）の「中心市街地活性化研修会」受講時にさかのぼる。

研修会は、３泊４日で神奈川県の大変立派な公団の研修センター会場(宿泊設備も完備)において、全国から約５０名の受講者が集まり、三日間缶詰状態で行われた。

２ 出逢えた、初めての日は

それは、研修初日(２月９日)、相当冷たさを感じる朝から始まる。

朝９時半から国の方を始め、夕刻五時までビッシリ講義があり、聴くこと殆どが始めての勉強で『*ああー疲れたビー*』と初日の講義が終了。と思いきや、一息吐く間もなく班別グループ研修のための班編成（各班６名程）と班長の発表があり、それぞれの班別作業室へ。すうちゃんはＥ班でした。

『*なかなか、みんな賢そう、特に札幌市からの二人は・・・班長はどちらかといえば気の良さそうな人かなあ・・・*』それよりも与えられた課題は、自分たちでテーマを決めて活性化の街づくりを姿にし、その検討処理を、それぞれＡゼロ版の模造紙２枚にまとめあげるというもの。『*期限までにどんなものが出来あがるのかなあ・・・みんなとは初対面やし、不安半分、やる気半分*』と思いながら。

作業室のドアを開けると、真ん中に１５名程が囲める大きな作業机があり、Ａゼロの模造紙、マジック、筆記用具それにパソコンが用意されていた。班長の号令のもと各々椅子に腰掛け、先ずは、自己紹介をすませる。

最終日のグループ発表まで課題に取り組むため、今後の研究方針と分担及びスケジュールを話し合うが、面識のない面々で遠慮もあって、作業としては余り進まず、そうこうしているうちに、夕食時間の午後七時になったので、Ｅ班全員で研修センター食堂まで足を運んだ。夕食は立食であった。

夕食の最中には、班編成毎に一人ひとりが自己ピーアールを行い、学生時代を思わせる昔なつかしさと身も心も引き締まる思いを久しく感じた。

また夕食は、ビールやお酒もあって食べ放題、飲み放題だったが、講義終了時に与えられた課題を講義時間外で作成しなければならないので、自ずと、アルコール類は控えめで腹ごしらえを済ませ、どのグループも足早に作業室へ散っていった。

何せ時間が無いので、というのも、研究課題発表まで残り二日間の講義は、連日朝九時半から午後五時までビッシリで、研究課題作業をする時間は、起床時から朝九時半までと、昼休み、それから講義終了後の夜しか無いうえ、午後十時になると消灯時刻と称して、各作業室から追い出されるという始末である。

そこで、初日の午後十時以降私たちは、宿泊部屋フロアにある休憩室（喫煙室：各階に一室）の薄明かりの中、寒さも忘れ激論を交わした。

その中で、すうちゃんは以下のごとく、『路』に関しての遠い記憶を話した。

３ 出逢えた、その路は

それは、昭和２０年代後半から３０年代前半の少年時代に大阪のど真ん中（西区新町：芸子はんの御茶屋の町）で過ごした頃の記憶でした。

当時は、大阪でもまだまだ舗装のされていない『路』が多く、公園は近くにあったものの、子供の遊び場はもっぱら、その舗装もされていない地道で、夕方からは、そこに水を打ち縁台を出し近所の大人が集まってきては、三々五々「ガヤガヤ」言いながらよく将棋を指していた。

それからという日々は、眼を見張る勢いで車社会へまっしぐらで、道路という道路はすべてコンクリートやアスファルトに変貌し、子供は公園に、大人たちも縁台を出さなくなり、夕刻からは車の音だけで、『道』から近所の会話が聞こえ無くなるにつれ、コミュニケーションが薄れていったと思う。云々・・・

４ Ｅ班のテーマ決まる

Ｅ班の造る街づくりのポイントの一つとして、「現代社会における『道』は、車優先を重きに置き造られてきたが、これからは、車の無かった昔に戻り、人が優先されることで、演出と憩いの場を持ったヒューマンストリートとして『道』から『路』へ生まれ変わるだろう」といものである。

その『路』は「多くの人が歩き、溜まり、くつろぐ空間」となり、「出愛い、ふれ愛い、集い愛い」そして「コミュニティの復活」が形成され、街づくりの大きな一役を担うことは確実である。

また、その『路』には「人が出逢い賑わう：メインストリート」「ゆっくりふれ逢いを感じる：裏通り」「お年寄りものんびり過ごせて集い逢う：小路＆路地」があり、それらが組み合わさることで、地区住民の住み心地の良い、来訪者の絶えない明るく賑わう街の再生を目標に向かって行けるのではないか。

その中でも特に、メインストリートに絞って議論を重ねた。

そのメインストリートは、【フレキシブルな路「人を集め、回遊、滞留させる広場イメージ」として、愛称は「ひまわりロード」と命名した。

その結果、Ｅ班の中心市街地活性化のコンセプトは「ひまわりロード」を核とした街づくりビジョンとすることになったのである。

そして、「賑わいの中心市街地を創出するプランニングと課題等」とするＥ班のテーマを決めた時、時計の針は午前０時を廻っていた。

躰は疲れているはずだが、それを感じさせない充実感で、長くて短く思える研修初日を終える。

これが、すうちゃんの中心市街地との出逢いであり、広場としての路づくりの第一歩となりました。

５ これぞ本物の研修会

今まで出席した多くの研修会の中で、すうちゃんとしては一番内容のある、有意義でとても貴重な経験をさせていただきました。

この研修が、今まさに役立っていることに感謝し、研修会主催の都市基盤整備公団には、この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

なお、当時は、現在の職場（区画整理）へ配属（平成１３年から）されるとはゆめゆめ思っていなかったので、ご一緒させていただいたＥ班の皆様のお名前をすっかり忘れてご免なさい。

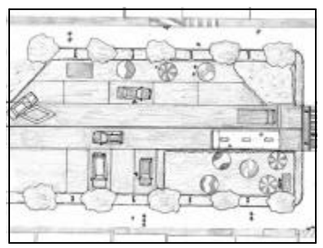
６ 実現への路と街づくり

この研修では、机上での創出された街ではあるが、ここで初めて出逢えて、探し求めていた恋人に巡り会えたような感動を、今立ち上がった（平成１３年度から）私どもの区画整理に、この『路』の実現と街づくりが実を結ぶよう頑張りたい。

蛇足であるが小耳に挟むところ、栃木県宇都宮市「宇都宮東武一番通り」や沖縄県具志川市「沖縄石川線」では、同じ様なイメージで路づくり・街づくりをされているようで、大変うらやましく思うところです。

【夢で終われない路づくり、街づくり】

（すずえ　としお）



フレキシブルな路